

わわわのひろば

2016年11月 第6号 社会福祉法人 宮城厚生福祉会



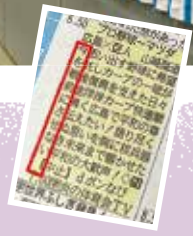
原水爆禁止2016世界大会に参加して

8月3日から6日の日程で原水爆禁止2016世界大会。宮城民医連からは18名、うち当法人の職員3名で参加して来ました。

宮城から被爆者の木村緋紗子さんが同行してくださり、当時医師として活躍していたお父さんが眠るお墓参りにご一緒させて頂きました。原爆を受け、その3日後に亡くなった父、その数日後に亡くなったお祖父さん—それまで裕福な、幸せな家庭が一変。お祖父さんの皮膚は焼けたただれ、湧き出るうじ虫を取る中……くさくてつらくて「はやく死んでしまえばいいのに」と思ったことを後悔されていること—そしてもう二度とあんなことがあってはならないと、体調も優れない中でも活動を続けてこられました。「皆さんと広島に来るのはこれが最後だから。出来ることはがんばるけれど、いつまで出来るかわからない。今日お話した皆さんに託しますから、語り継いでいってほしい。」と話されました。

昨年9月19日に戦争法が国会を通過、憲法改悪の議論の起こり、核武装を支持する都知事も誕生する中、日本だけを見ると情勢が混迷して見えます。こうした中、大会に参加することで、本当に平和と核兵器廃絶は世界の流れであることに確信が持てました。大会にはフランス・インド、アメリカなどの核保有国も含めて26カ国からの参加があり、中には政府代表も参加していました。核保有国でも核兵器廃絶の運動がありますが、アメリカでも15万人から20万人が運動する団体があるということです。それは、被爆者の皆さんが各地に行って核兵器の被害について語って来たからとの報告がありました。核兵器廃絶に向けてはまだまだ課題はあるものの、世界の世論は国連加盟国にも広がり、核保有国にも広がり、大きく前進しています。

被爆者の皆さんの平均年齢は80歳を超えたとのことです。私たちは核兵器の被害を直接伺える、最後の世代かもしれません。被爆者の皆さんの想いを語り継ぎ、核兵器廃絶まで運動を続けて行きたいと思います。





仙台市 宮城野児童館

せんだいしみやぎのじどうかん

〒983-0042 仙台市宮城野区東宮城野2-40
TEL 022-236-0804 FAX 022-352-7631

「花と絵と歌のある児童館」をスローガンにして、宮城野児童館は開館から十年目を迎えました。宮城野小学校と東宮城野小学校の一・二・三年生百三十人が児童クラブに登録して、放課後毎日のように遊んでいます。又幼児クラブでは三十組の親子の登録があり、こちらは午前中に運動会や季節の行事を楽しんでいます。

利用しているのは登録メンバーだけではありません。毎月の赤ちゃんサロンには乳児親子が集まって、歌遊びや運動・育児についての勉強などをしていきます。放課後自由に来館して遊んでいく中高生も毎日のようにあります。こうして年間の利用者は全部で延べ三万人。ここは、0歳から十八歳までの子どもとその保護者が利用する地域の遊びの拠点です。

毎年秋に開かれる児童館まつりは宮城野児童館の特徴をよく現しています。

この日は普段利用しない子どもも含めたくさんのお客さんと児童館は賑わいます。児童館職員はこの日のために、毎年工夫を凝らしたお店を出します。大人のボランティアの方々もたくさん楽しいコーナーを作ってくれます。

子どもボランティアさんは夏休み中から集まって「子ども縁日」コーナーの準備を進めています。企画、買出し、制作、実施と児童館を卒業した子どもたちが活躍するのはこの児童館の特色のひとつです。

ぜひぞお近くにおいでの際はお立ち寄りください。児童館はいつも地域に開かれています。

(館長 鈴木 宏之)



就労継続支援事業 工房 歩歩

こうぼう ぽぽ

〒981-0124 宮城郡利府町沢乙東3-3
TEL 022-767-8655 FAX 022-767-8656



所・介護施設関係、一般企業の職員向け売店、利府・塩釜栄の生協等に納品しています。それ以外にもイベントや社保活動での注文を頂いて製造・販売しています。

日中の暑さも少しずつ和らいで秋の風を感じるようになり、炎天下の下での除草作業や室温35度以上でのパン製造といった状況から過こしやすくなってきたおり、元気に作業に取り組んでいます。

最近と同地域にある利府支援学校からの職場実習の希望者も増えてきており、将来を考えるきっかけにしてもらえるような活動を行っています。

工房歩歩が支援の中で目指すものは、就労能力の習得はもちろんですが、就労支援を通じた社会参加を重要視しています。東日本大震災時は、法人内事業所や利府町へパンを配布し、利府町から感謝状をいただきました。利用者さんからは、自分たちのやっているとことが社会の役に立っている実感があったと語られました。

これからも工房歩歩は、障害のある方が働くことを通して、社会参加を重視した就労支援を行っていききたいと思っています。

(施設長 小野 英俊)

福祉社会と私 ③

宮城厚生福祉会 乳銀杏保育園 元園長 高橋 悦子



乳銀杏保育園を退職してから2年7か月。保育士や介護士が集まらず定員を縮小しなければという報道を聞くと、これまで保育や介護は低待遇の中でどれだけ大きな役割をはたしてきたのかという思いになります。7月の参議院選挙が終わった夜「社会保障の伸びを抑えていくことも大切だ」と強調した安倍首相。この方には私たちの声は届かない、早く替えたいという気持ちにもなります。

福祉会ができるとき、理事会で法人の名称をどうするか議論したり、宮城野の里がたくさんの方々の英知を集めて建設される様子を目の当たりにして、これから福祉事業が大きく展開されるのだと喜びの思いにもなりました。

かわりはその前の段階です。民医連が高齢者事業に着手するため新法人を設立することになりました。乳銀杏保育園を母体として新法人（福祉会）を立ち上げることになり、そのため保育園が厚生協会所属を抜けたのです。すでに新法人は介護事業の法人として準備されており、保育との労働条件の違いなどいろいろな議論を重ねての移行でした。それからまもなく保育園の小野園長が「宮城野の里」の施設長に異動することになりました。8月に異動が決定し10月には私が次期園長に就任しました。園長になるなんて予想もしなかった私でもあり、職員も不安の中で、運動会が10月5日にあってそこで保護者のみなさんに挨拶したことを思い出します。保育園は増築中でもあり、次の年から90名から120名への定員増、一時保育や休日保育も開始するという状況でした。いろいろ大変なこともあったけど充実した日々でした。

保育と介護事業を一緒に運営している法人はたくさんありますが、保育のほうで長く事業をしていたこともあり、法人運営の大変さがあったかなと思います。彦坂先生が理事長だった時に、保育と介護職員の賃金を同じにしようと理事会で検討したこともありましたが無理だということになりました。社会保障費が削減され、福祉が後退する状況の中で事業を広げていく困難さは予想以上に大きいと思います。福祉会の一員としてよりよい福祉・保育を求めて働いてきたという思いもあり、今後、福祉会の後援会にも力を出していかなければと思っています。



風の音 ふれあい祭り



8月27日第11回風の音ふれあい祭りを開催しました。今年のテーマは「I g I e」（一期一会）でした。ご来賓の方に開催の挨拶と祝辞を頂き、葉山保育園児によるお神輿、お遊戯から始まり、和太鼓や民謡といった日本の伝統芸能も取り入れたお祭りになりました。今年初の試みとして、最後に行っていた大抽選会を、抽選箱を持った魔女・サンタクロースを見つけくじを引くようにしてみました。また、昼食時間のステージイベントをお子様対象の〇×クイズ大会を開催しました。答えを真剣に考える姿に入居者様・利用者様からの声援も聞かれ和やかな雰囲気で行われました。

ぐずついた天候でしたが、約320名の方にご参加頂くことが出来ました。今年もボランティアさん・地域の方を始め多くの方々にご協力を頂き、開催できましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



福祉会のなかまの輪 わわわのわ

福田町デイサービスセンター 生活相談員
黒澤 有美さん



左から2人目が黒澤さん

2000年4月の介護保険制度がスタートし、宮城野の里が開設され、当時入職した時は21歳でした。あの頃は最年少でしたが、あれから16年…月日の経つのは早いものです。21歳で結婚をし、今は3人の子供の母として宮城野の里で働かせて頂いております。子育てと仕事の両立は、とても大変な事も多いのですが、その反面、子供たちも親の働く姿を見てすくすくと順調に育ってくれています。仕事に息詰まってしまった時、家に帰ると子供たちがおかえり〜と、私に駆け寄ってくれたり、体調が悪い時も、どこ痛い?大丈夫?と気遣ってくれたり、一生懸命に働く姿を子供たちも見てくれているんだと実感し元気をたくさんもらいます。子供たちも甘えたり、一緒に過ごしたいと思いがちがあっても我慢する事があると思ひ、休日は子供たちとの時間を大切に過ごしています。休日は子供たちが行きたい所のリクエストを聞き、よく行くところは「うみの杜水族館」です。年間パスポートを持っているので、子供たちと楽しい時間を過ごしています。子供たちから「今日は楽しかった。ありがとう」と話してくれる事があります。日々の日常生活の中で、子供と向き合える時間が少ない中子供も一生懸命に成長してくれていると思うと胸が熱くなります。

私の私生活はこんな感じですが、仕事も子育ても楽しんで生活する事が何よりも財産と思っています。介護、保育の分野と全国的にも人材不足が報じられていますが、子供からお年寄りまでが明るい社会を築けるよう共に頑張っていきたいと思います。



次号の仲間は
乳銀杏保育園 保育士の
荒川弘子さんです。

クイズ わわわ

さっちゃん5歳の考えた問題です。

【問題】 夜空を見上げると星がきれいですね。さて、なぜなの問題です。

「ほしはほしでも、赤いほしはなんでしょか?」



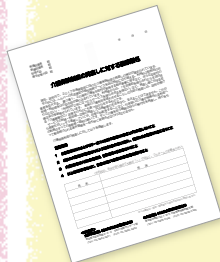
【解答について】

解答は、住所(事業所)、氏名、ひとことを添えて、メール(t_sasaki@zmkk.org)かFAX(022-388-9969)で送付してください。抽選の上、5名様にクオカードを進呈いたします。

締切: 2017年1月10日(火) 必着 当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。解答は1月下旬に、法人HP(<http://www.kou-fuku.or.jp/>)に掲載いたします。

社保委員会より お知らせ

現在、各事業所で取り組んでいる署名です。よろしく願います。



●保育署名

今、社会問題にもなっている待機児童解消や保育士増員を求める署名です。「保育は、いまとみらいを支えている」

●介護保険制度の見直しに対する署名

お金の心配をすることなく、行き届いた介護が保障される制度への転換を求める署名です。

●福祉ウェブの取組み

上記署名を拡大・推進するため、関係団体と福祉ウェブ実行委員会を組織し、11/13(日)フォーラス前、さくら野前にて街頭宣伝・署名行動を行います。

